

果樹カメムシ類の発生は「やや多め・早め」です！！

本年4～7月の果樹カメムシ類の発生量は平年より**やや多く**、**飛来時期も早まる**と予測されます。特にスギ・ヒノキが多い地域や、過去に被害があった圃場では、早期からの袋掛けやネットによる侵入防止、発生初期での薬剤防除を徹底してください。栽培圃場で被害果やカメムシ類を確認した場合は、速やかに防除を実施してください。

●果樹カメムシ類の生態

本県における果樹カメムシ類は、主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ、アオクサカメムシの4種です。例年、果樹カメムシ類は4月下旬頃から初飛来が確認されます(図1、図4)。3～4月の気温が高い場合には活動が活発となり、加害が早期に始まることがあります。2024年には、モモやナシにおいて幼果期頃から被害が発生したほか(図2、図3)、多くの果樹で収穫量が大きく減少しました。幼果期に加害を受けると、落果や果実の奇形が生じ、商品価値の低下を招きます。

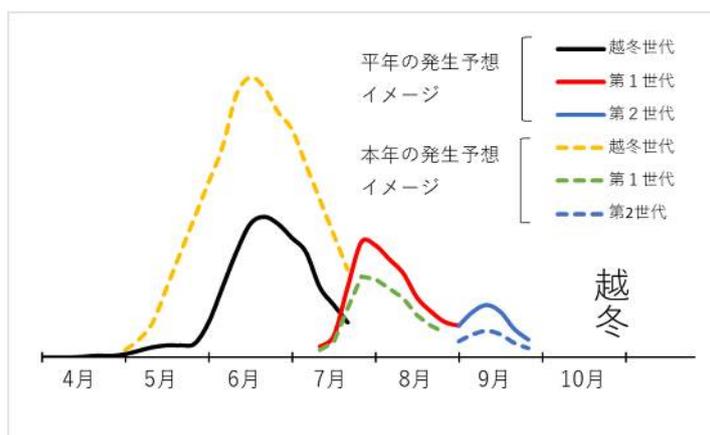


図1 果樹カメムシ成虫の発生活長イメージ図



図2 モモの幼果の被害

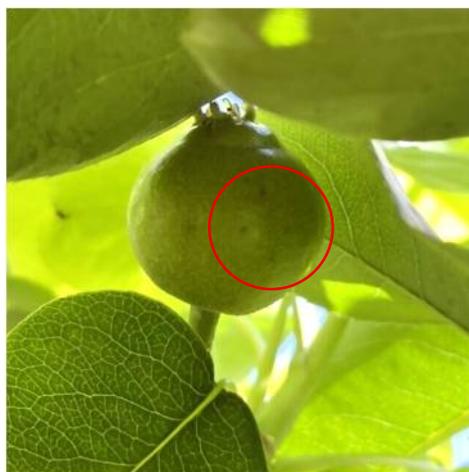


図3 ナシの幼果の被害
(西讃農業改良普及センター提供)

●今後の発生予想

- (1) 当該年2～5月のスギ・ヒノキ総花粉飛散数と翌年の4～7月の予察灯における誘殺数との間には高い正の相関関係があると報告されています¹⁾。香川県における2025年のスギ・ヒノキの合計花粉飛散量²⁾は2062.6個/cm³であり、前年値286個/cm³と比較して7.2倍多い結果となりました。
- (2) 果樹カメムシ類の発生量は、主要な餌であるヒノキ・スギ球果の量に左右されます。2025年7月に県内16地点でヒノキの球果量を調査した結果、「やや多い」と判断しました。このことから果樹カメムシ類の越冬個体数が「やや多い」と予測されます。
- (3) 本年の越冬時期(12月～2月)の3か月の平均気温(高松气象台)は7.6℃であり、平年値6.8℃と比較して0.8℃高く、越冬個体数が多くなると考えられます。
- (4) 気象庁発表の3か月予報(2026年2月24日発表)によれば向こう3か月の気温(四国地方)は高くなる見込みで、通常より早期の飛来が考えられます。
- (5) これらのことから、本年4～7月の果樹カメムシ類の発生量は「**やや多く**」「**早期に飛来する**」と予測されます。

●防除対策

- (1) ナシ、ブドウの有袋栽培では、できるだけ早く袋掛けを行います。また、袋掛けを行う際は、袋と果実が密着していると、袋上からカメムシが吸汁することがあるため、極力袋と果実に隙間ができるように袋掛けを行ってください。
- (2) 施設栽培の場合は、施設開口部をネット(4mm目合い)で覆うとカメムシ類の侵入防止対策となります。
- (3) 圃場内をよく観察し、被害果実(図2、3)やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施してください。特にスギ、ヒノキが周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意が必要です。
- (4) 多発してからの防除は効果が劣る場合があるので、発生初期の防除を徹底してください。
- (5) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的です。
- (6) 防除薬剤は、主要作物病害虫・雑草防除指針(表1)、香川県監修の果樹病害虫防除暦を参考にしてください。
- (7) 薬剤の選定にあたっては、剤の性質によって使い分け³⁾が好ましいとされています。
 - ・有機リン剤は、殺虫効果は高いが、残効が短いです。
 - ・ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も1週間以上あります。ただし、天敵への影響が強く、ハダニやアブラムシのリサーチェンスを引き起こす場合があるので注意してください。
 - ・ネオニコチノイド剤は、吸汁阻害効果の残効は比較的長いものが多いですが、殺虫効果や降雨の影響は、剤により違いがあるので、特性に留意して使用してください。
- (8) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
- (9) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果がありますが、ほかのカメムシ類には効果がないので注意してください。

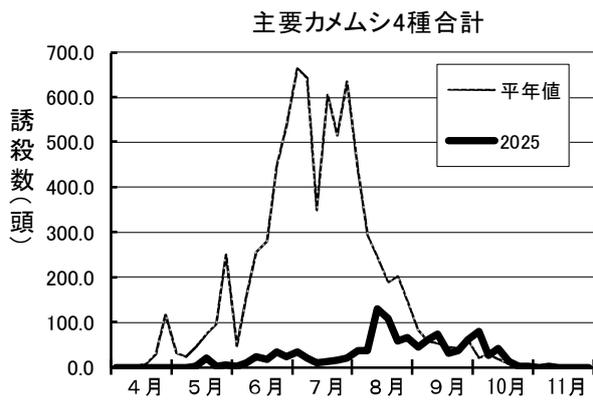
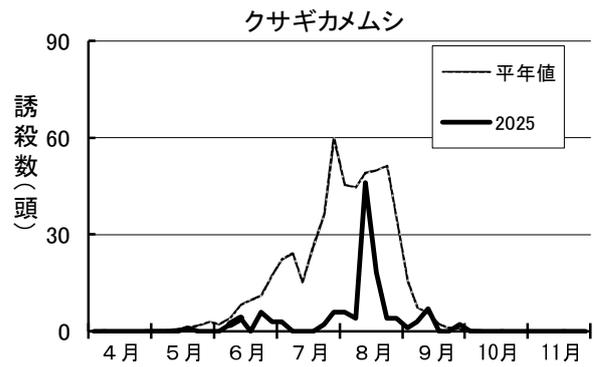
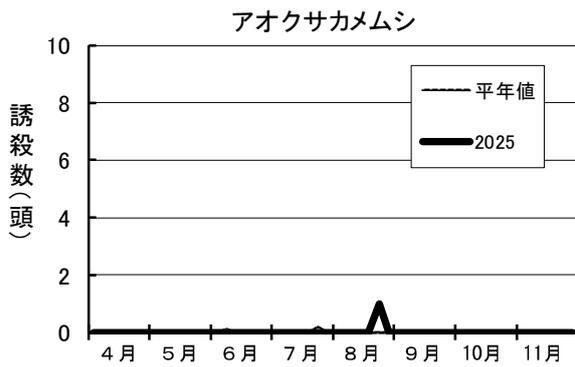
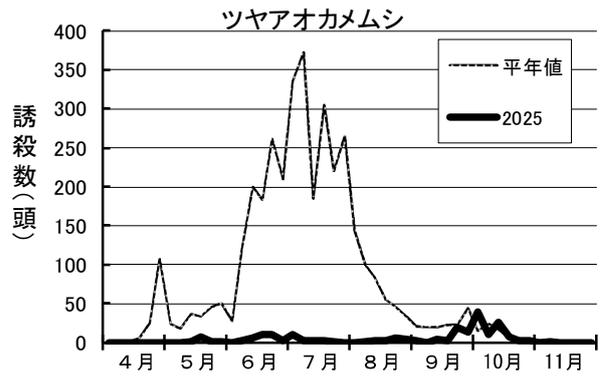
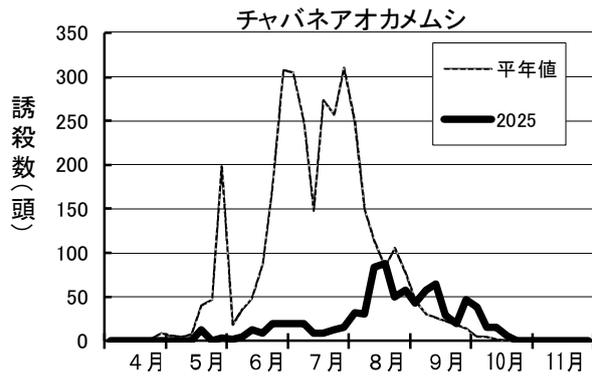


図4 府中果樹研究所(坂出市府中町)の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

表1 モモ・ナシに登録のある薬剤(主要作物病害虫・雑草防除指針抜粋)

作物名	薬剤名	薬剤の系統	IRACコード※	薬剤使用の特記事項	
モモ	スミチオン水和剤40	有機リン系	1B		
	アディオンの乳剤 アグロスリン水和剤 テルスター水和剤 テルスターフロアブル アーデント水和剤 アーデントフロアブル ロディー乳剤	ピレスロイド系	3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A	ピレスロイド系剤(IRACコード:3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する	
	アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4A 4A 4A 4A 4A 4A		
	(混)キックオフ顆粒水和剤		28・4A		
	ナシ	スミチオン水和剤40 スミチオン乳剤	有機リン系	1B 1B	
		アディオンのフロアブル アディオンの乳剤 アグロスリン水和剤 サイハロン水和剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 テルスター水和剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤20 アーデントフロアブル アーデント水和剤	ピレスロイド系	3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A	ピレスロイド系剤(IRACコード:3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。
		アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A	
		(混)キックオフ顆粒水和剤 (混)パーマチオン水和剤		3A・1B 28・4A	

※IRACコードとは殺虫剤の作用機構(効き方)を抵抗性管理のために分類し、数字とアルファベットで分かりやすく表示した略号です。同じコード(同じ作用機構)の薬剤を連用すると抵抗性害虫が出現するリスクが高まります。



香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針

https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojobyogaichu/sisin/byougaityuu_sisin.html

引用元

- 1) 千脇健司・近藤章・岡锚雄 (2003) : 岡山県におけるスギ・ヒノキ花粉飛散数を利用した果樹カメムシ類の発生量予測. 岡山農試研報. 21:11-14.
- 2) 環境省ホームページ : 花粉情報サイト
<https://www.env.go.jp/chemi/anzen/kafun/>
- 3) 外山晶敏 (2014) : 植物防疫 第 68 卷 第 7 号

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

